

鹿沼の自然・栃木の旅

月報第 6 号

(2012 年 10 月)



～続々・牧野富太郎生誕 150 年～

北光クラブ
自然観察クラブ

牧野富太郎著「續植物記」(昭和19年・櫻井書店)

今回初めて牧野富太郎自筆の文章をご紹介します。本書は『牧野日本植物図鑑』に並び代表的名著」として今年バベル社より正・続揃って復刻版が出版されています。

(参考までに前号『牧野植物随筆』は講談社学術文庫に収録されていますので、興味のある方はどうぞ。)

「野外の雑草」より

世人はいつも雑草々々と貶しつけるけれど、雑草だってなかなか馬鹿にならないものである、すなわちそれが巖然たる植物である以上、種々なる趣を内に備えていて、これを味えば味うほど滋味の出て来るものであると同時に、またその自然の妙工に感嘆の声を放たねばいられなくなる。世人が今少し植物に関心を持って注意をそこに向けるならばその人はどれほど貴い知識と深い趣味とを獲得するのであろう乎、殆ど料り知られぬほどである。場合によれば美麗な花を開く花草よりも更に趣味のあるものが少なくない。私共は植物学をやっているお蔭で、不断にこれを味うことを実践しているのでその楽しみが最も多い。そしてこの深い楽しみが一生続くのであるから、とても幸福で二六時中絶えて心に寂寞を感じない、ようこそ吾れは草木好きに生れたもんだと自分で自分を祝福している。

私はこの楽しみを世人に頒ちたい、それは世人が今少しく草木に気を付けることによって得られるのである。「朝夕に草木を吾れの友とせばこそ淋しき折節もなし」私は幸いにこの境地に立っている。今世人が皆悉く吾れに背くことがあったとしても、われはわが眼前に淋しからぬ無数の愛人を擁しているので、何の不平もないのである。いざ二三の雑草について少しく述べて見ましょう。

野外で最も眼に着くものはタケニグサである。アノ緑色を帯びた大形の草が群れをなして立っている有様は、その周りの草の中で頗る異彩を放っている。この草は支那にもあって同国では博落廻といっている。

円柱形の中空な茎が高く六七尺にも成長し、雅味ある分裂をなした天青地白の大葉を着け、梢に大きな花穂が立ちて無数の白花が咲き、遠目にも能く分

(次ページへ続く)

るが、近づいてその一々の花を点検して見ると、花には二枚の萼片と雌雄蕊ばかりで敢て花弁を見ることがない。つまり無弁花である。花がすむと実の莢が沢山出来これを振って見るとサラサラと音がするので、それでこの草を一にササヤキグサと称えるが、それが訛ってシシヤキグサともいわれ、またソソヤキとも呼ばれる、またその音で騒がしいから喧嘩グサの名があるのは面白い。

この草を傷けて見ると、柑黄色の乳液がにじみ出るのでこれを毒草だと直感し狼グサと呼び、誰もこれを受づることをしない植物である。そして別に何の効用もないようであるが、しかしその汁を皮膚病に塗れば癒るという人もある。

タケニグサはこの草で竹を煮れば、竹が柔らかくなると大抵の人が想像しているが、決してそんなことはない、私はこのタケニグサは或は竹似グサの意ではないかと考えている。何んとならばその円柱形の茎が中空で頗る能く竹に似ているからである。秋の末になってその葉の枯れた時の茎は堅くなって、丸で竹のようであるから地方の子供がそれで笛を作り吹くのである、この事実は同じく支那にもあって同国でも笛に利用するとのことである、この草の名の博落廻は一種の笛の名である。

この草は一にチャンパグと称するが、それはその草の姿が頗る特別で衆草と違っている異草と見えるから、それでこれを異国から渡ったものだと思い違いをして、それで占城菊(チャンパキク)と呼んだものであろう占城(チャンパ)は交趾支那の南方地域の名である、菊とはその分裂葉を菊の葉に擬えたものだ。

なかなか頭のよい商人があつて、春早くその太い根株へ少し芽の吹いたものを町へ持ち出し、大道脇で売っていた、商人はこの草には後に牡丹のような大きな花が咲くと真しやかに叫んで客足を引くにつとめた。そうするとそれを悪人とはつゆ知らぬ善人が、ポツポツその苗を買って行った。私の知人で植物の知識が相当にありながら不覚にもそれに引かかり、間もなく葉が出て来て見たらタケニグサだったのでシマツタとは思って見たが、それは後の祭りで茫然自失するよりほかなかった。



横根山・秋の自然観察ハイキング

～牧場、湿原、森林、そしてもうひとつの横根山の魅力～

9月16日（日） 天気・晴れのち小雨

夏休み以外の自然観察クラブの活動としては珍しく、子ども 12 人、総勢 23 人もの賑やかな山行となりました。

お天気もまずまずで気持ちの良い高原風景の横根牧場を出発。

「ここからは探検でーす」の“隊長”のひと声とともに道はうっそうとした森林に入り、苔むした大岩や笹やぶの道なき道を、足元に注意しながら進んでいきます。市指定の天然記念物「横根山の岩海」の、苔におおわれた巨岩が転がる風景の中で、太古の火山活動以来の時間の流れに思いを馳せます。時折見かける植物、昆虫、岩石などを観察したり、解説を聞いたりしながら、五段の滝（というより溪流？）を経て、空の開けた井戸湿原に入りました。

ちょうど降り始めた雨を避けるようにあずまやで昼食休憩。やがて雨も止み、横根山頂を経て牧場に戻りました。

一服しながら、最後にハイランドロッジ周辺に生息する蛾の実物や標本を前に、昆虫教室のおまけが付きしました。

※ 参加者

網代さん親子、上原悠生・由美子、工藤仁ノ介・慎吾、
佐々木伸二・千洋・真澄・茂、鈴木若菜・康之、中荒井匠・李華・章子、
和田さん親子、山口龍治、石崎裕子、阿部瑞穂・良司・みゆき他（計 23 名）

※ 咲いていた植物

たで科	ミゾソバ	ゆきのした科	ダイヤモンドソウ
	アキノウナギツカミ	ふうろそう科	ゲンノショウコ
きんぼうげ科	ナンタイブシ	せり科	シシウド
	サラシナショウマ	りんどう科	オヤマリンドウ

(りんどう科) ハナイカリ
 しそ科 シロネ
 ふじうつぎ科 フジウツギ
 ききょう科 ヤマホタルブクロ
 きく科 アキノキリンソウ
 ゴマナ
 シロヨメナ
 (ヤマシロギク)

(きく科)

ウスユキソウ
 ノコギリソウ
 キオン
 メタカラコウ
 オニアザミ
 ニガナ
 セイヨウタンポポ



見つけたキノコ

アセタケ、キイボカサタケ、コカブイヌシメジ、
 サクラタケ、シロハツ、タヌキノチャブクロ、
 ツチカブリ (図参照→)、ハナイグチ、フクロツルタケ



ツチカブリ



見た鳥・聞いた鳥

カケス、ヒガラ、メジロ、ヤマガラ



見つけた蛾

オビガ、カギバアオシャク、
 クスサン (図参照↓)、
 ジョナスキシタバ、ムラサキシタバ

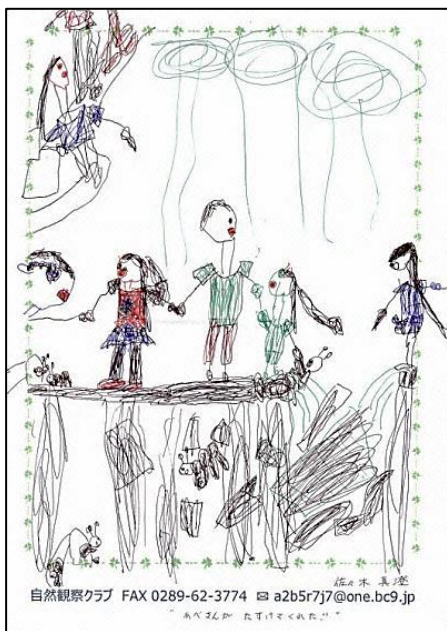


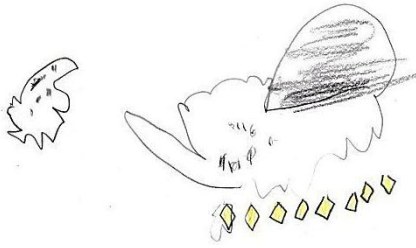
クスサン



参加者のみなさんから いただいたおたより(一部省略)

“あべさんが たすけてくれた!!”
 (佐々木真澄・年長)





がんせきはまだあらってないけど、
みたのははじめてだから、あべさ
ん、こんどいくときはがんせきだけと
りにいきましょう。

(和田翔一朗・北小2年)

9月16日(日) よこね山ハイキングにさんかして

よこね山ハイランドロッジから歩きはじめて、山の中に入りました。ささにおおわ
れたみちをかきわけて、と中大きなこけ岩があったり、岩石がところどころにあ
ったり、穴があって、思っていたより歩くのが大へんでした。五だんのたきにつ
いた時は、すこしほっとしました。

めずらしい花を見つけて、おしえてもらいました。(ノコギリソウ、オニアザミ、ダ
イモンジソウ、サラシナショウマ、アケボノソウ、ナンタイブシなど)

と中で雨がふってきたけれど、よこね山のちょう上につくことができました。

とてもつかれたけれど、色いろなぼうけんが出て、たのしかったです。また
つきもさんかしたいです。

(あじろみずき・北小2年)



私とゆうきの初めての参加で、「ハイキング」とあったので参加を決定しました。

「とりかぶと」や「エーデルワイス」は初めて見る花で、写真で見ると本物は違うなと思いました。

ただ、ゆうきが石と石の間に半身が入ってしまい、リュックを引っ張って引きずり出した時は冷や汗が出ました。

いろいろと良い思い出が出来ました。 （上原由美子・北小1年保護者）



久々に自然観察クラブに参加できて、楽しかったようです。

前日から自分でせっせと準備をして、天気を心配しながら就寝。

カコウガンについてトンカチを持ち出して割りながら熱く語り、トリカブトやら毒キノコやら、蛾を収集しているオジサンの話など、盛りだくさんの活動で大満足で帰宅しました。

（工藤寛子・北小3年保護者）

今回は娘が友達を誘い一緒に参加しました。古峰ヶ原から古峰ヶ原湿原横を通って横根高原まで車で行けるようになっていたんですね。湿原の自然が損なわれないといいのですが…。

駐車場から歩いてすぐ、車の通れないハイランド線に入り、廃？遊歩道に分け入りました。ちょっとした藪漕ぎや、すでに用を成さないほど荒廃した木道を通るのは大人ながらわくわくしましたが、小さい子たちには少し難関だったようです。新聞等では見ていたものの貴重な岩海を見ることができ、長い時が作り上げた自然の造形を堪能できました。また横根湿原ではネットが張り巡らされ、植物が手厚く保護されていることを実感しました。あいにく、湿原到着時には雨が降ってしまいましたが、山小屋跡に大き目の東屋ができており、濡れずにゆっくり昼食をとることができました。

今回も道中、阿部隊長、山口ハカセからダジャレを交えた？トークで様々な植物、虫の名前を教えていただき、とても勉強になりました。

（鈴木康之・北小4年保護者）

奥日光、西ノ湖・千手ヶ原・高山ハイキング
～ミズナラ・ハルニレ等の巨樹を訪ねて

「矗々として天を摩するといふ大樹の形容は漢文で永い間讀んでみたけど、ほんとにこれだなと實感に打たれたのは千手ヶ原におりていって、そこに生えてみたみずならの木立の中に立った時が始めてだ。(中略)

静かな朝は西ノ湖からあけていった。

そのふちの原を少しゆくうちに朝霧は上ったが、雲は深く空を覆ってゐる。行手に大きな林が高く見える。その梢を雲がかすめてゆく。近ければ近いほど立派になる林の中にはいってしまふ。林といつてはいけなないかもしれない。極めてまばらに生えてをって、一本一本が獨立して梢まで眺め上げられる。まっすぐな太い幹は雲の中まですくすくと伸び上って、大きな葉も、かすんで見えない位だ。緑の笹原に鼠色の幹が象の足のやうにつたってゐた。こんな立派な木立はその後の永い山の旅の中にも見た記憶はない。果して今もあるだらうか。日光の山の大きな誇りである筈だが、もう一度見にいってみたい。それから、小さな峠をこえて、小田代の原に出た。」

「山と溪谷」第111号(昭和23年5月1日発行)より「千手ヶ原と鬼怒川水源」黒田正夫

紅葉の季節を迎えた奥日光は人出も多いと思いますが、早めに出発して赤沼に車を置き、バスで西ノ湖まで入りましょう。千手ヶ浜から湖畔を熊窪まで歩き、高山に登って山岳展望を楽しみ、竜頭ノ滝に降りて、赤沼茶屋に戻ります。

西ノ湖畔のヤチダモ、またミズナラやハルニレの巨木は見事です。今回も山口さんがいろいろなキノコの名前を教えてくださいと思います。高山山頂に三角点があります。

熊窪(中禅寺湖畔)の標高は 1,269m、高山の標高は 1,667m。

日 時：10月14日(日) AM6:00 北小西門集合(解散は PM5:00 頃)

行 程：赤沼茶屋—(バス)—西ノ湖——千手ヶ浜——熊窪——峠——高山
——竜頭ノ滝——赤沼茶屋

服 装：長袖シャツ、長ズボン、防寒着(セーター、ジャンパー)、
帽子、手袋、軽登山靴または運動靴

持ち物：リュックサック、ポット、レジャーシート、雨具、お弁当、おやつ、
お手ふき、タオル、ちり紙、筆記用具、レジ袋

あると便利なもの：双眼鏡、図鑑（鳥類、昆虫、植物、菌類）、
ルーペ、カメラ、1/25,000 地形図は「男体山」「中禅寺湖」

会 費：おとな 500 円、子ども 250 円、
他にバス代がかかります（大人 300 円、小人 150 円）。

今年度初参加の方は年間保険料 800 円。

問い合わせ：自然観察クラブ（090-1884-3774 阿部）



山口さんの自然講座

横根山の岩石について

横根山の岩石は、マグマが地下でゆっくり冷え固まって出来た花崗閃緑岩です。岩石を大きく分けた名前では火成岩（“火”とは火山）です。火山でマグマが地表に流れ出て急に冷え固まって出来た岩石です。

一方、花崗岩や閃緑岩は、同じ火成岩なのですが、地下の深い所でマグマがゆっくりと冷え固まって出来た岩石なので、深成岩と呼んで区別しています。

花崗岩はそのまま冷え固まったのに対し、閃緑岩は、マグマが動いたために、流れ構造を持っています。これだけなら簡単に見分けられますが、含んでいる鉱物の含有量も加わったので純粋な花崗岩や閃緑岩はなかなか見られません。そのために花崗岩の特徴を持った閃緑岩という、ややこしい名前です。

深成岩は日本の土台を作っている岩石で一番古く、別の所での年代測定では、約2億5千万年前とのことです。周りの山は、もっと新しい時代に出来た火成岩なのに対し、横根山は、日本で一番古い岩石が露出した山なのです。

（山口龍治）

横根山の観察会で気になったこと

横根山には、貴重な植物が多く自生する井戸湿原があります。その極めて近くに牧場があります。牛などを飼うために牧草を植えますが、その多くは国外からとりよせたイネ科植物です。その中には、いろんな雑草の種子が混じっています。外来種が湿原に侵入して、植物の生態系が変わってしまうのが一番心配です。

尾瀬の至仏山では登山口に足拭きマットが置かれていて、靴をよく拭き、外来種の種子を落としてから入山する対策がとられています。

横根山では、何の対策もとられていないように思いました。植物採集を禁じる看板があり、これだけでは外来種の駆除ができません。山中に北アメリカ原産のダンロボロギクが2か所に、昼ごはんを食べた所にはヨーロッパ原産のセイヨウタンポポを見ました。領主とも種子が風によって広がるので、足拭きマットだけでは防ぎきれませんが、何らかの対策が必要だと感じました。湿原内に、すでに外来種が侵入していると見るべきでしょう。

珍しい植物に目が向きがちでしたから、見落としていたかも知れません。湿原を管理している所は、外来植物の駆除を真剣に取り組むべきだと強く感じました。

(山口龍治)



鹿沼の自然・栃木の旅 月報第6号

2012 年 10 月 1 日発行

北光・自然観察クラブ

鹿沼市上田町 1923

発行人 阿部 良司

年会費 1200 円

ホームページでもご覧になれます→

クリーニングハウスあべ



検索